

令和5年度 学校評価（総括評価表）

令和5年度 学校評価（総括評価表）

重点課題	重点目標	自己評価			総合評価	B	学校関係者評価 今後の改善方策
		評価指標	評価指標による達成度	評定			
◆児童生徒一人一人を大切に、その個性や能力に応じて自己実現をめざす個別最適な教育の推進	<中・高等部> ・生徒一人一人に適切な支援を実施するために、共通理解を図る。	①生徒の実態や支援方法を情報共有するための学部全体のケース会以外に、生徒一人一人についての情報交換会を年2回実施する。	①前後期各2回のケース会、中間報告の情報交換会を実施し、生徒一人一人についての情報共有をすることができた。	B	(所見) ケース会では、個別の指導計画をもとに、担任から、目標や手立てを、各学期末においては評価（達成度）を説明した。それに加えて、中間期で情報交換会を設けることにより、各教科における取組、生徒の様子、教科担任の思い等の共有ができた。 訪問生については、動画の提示により、普段の生徒の様子、教員の関わりを全員で共有できた。 様々な意見交換ができ、各教科における生徒の細かな様子もよく分かり、大変有意義であった。 今後も継続していきたい。	十分に取り組むことができていたとの評価をいただき、AではなくB評価とした理由についての質問があった。 →今年度情報共有については成果を得ることができたが、もっと活発な意見交換になればとの思いがあり、次年度も継続して取り組みたいと、B評価にした理由を伝えた。次年度は教員の意見が活発に飛び交うケース会となるようケース会の持ち方を工夫したい。 ※すべての目標に言えることであるが、十分Aと評価できるので、Bとなる理由を記載してはとの意見をいただいた。	
		②前後期の中間期で1回ずつ、各々4日間設定（学級・HRごとに日を分ける）実施する。 ③各生徒について、担任及び教科担任が参加する。 ④病棟訪問生、在宅訪問生は全員で情報を共有する。 ⑤ディスカッション方式で、課題の共有や支援方法の再確認、今後の方向性について意見交換をしていく。 ⑥共通理解できたことを指導に生かし、次の会で報告する。	①前後期の中間期で1回ずつ情報交換会を実施することができた。 ②各担任、教科担任が参加し、活発な意見交換ができた。 ③関わることの少ない訪問生においては、映像を提示することにより、理解を広め、全員で情報の共有ができた。 ④各教科での様子を情報交換し、具体的な場面での支援方法について意見を出し合うことができた。 ⑤前期の情報交換会で共通理解したことを日々の指導に生かし、後期の会では、各教科担任からも報告があった。				

重点課題	重点目標	自己評価			総合評価	B	学校関係者評価 今後の改善方策
		評価指標	評価指標による達成度	評定	(所見)		
◆安心安全な教育環境の整備と危機管理の推進	<p><小学部></p> <p>・安心安全な学校生活を送ることができるよう、災害時および緊急時に備え、環境や防災グッズの整備、教員の対応などの体制を整える。</p>	<p>評価指標</p> <p>①教員が整えた災害時や緊急時の対応について学部に周知することができる。</p> <p>②災害時や緊急時を想定した検討会や演習を年間3回以上実施することができる。</p>	<p>①学部会等で災害時や緊急時の対応等について、周知、共通理解を図り、教員全員が対応できる体制作りができた。</p> <p>②避難経路の確保として耐震倉庫の整理や中庭の整備、避難訓練として垂直避難や担架の使用等3回以上の検討会や演習を行うことができた。</p>	B	<p>(所見)</p> <p>災害時の長期避難まで考えることで、例年以上に具体的に児童を守る体制づくりに取り組むことができた。教員だけでは整えられないことについては保護者や医療機関等関係機関の協力を得て整えることができた。それを学部で情報共有し誰もが対応できるようにし、安心安全な学校作りを推進できた。</p> <p>日頃から学部で情報共有し、意見を出し合うことで、各教員が主体的に企画・改善を図ることができた。</p> <p>今後訪問教育など、教員が一人で授業している時の対応や判断についても深めたい。</p>	<p>徳島病院や外部の関係機関と連携し、しっかり防災に取り組んでいると評価をいただいた。</p> <p>今回、各地で地震が相次ぎ、防災に関する関心は高く様々な情報共有や意見交換がなされた。被災地の実態から、家に帰れず避難が長期にわたることが想定され、家族に引き渡すことを前提とした学校の避難計画では十分ではないと感じた。</p> <p>話題が上がったのは以下の内容である。</p> <p>①備蓄について →分散備蓄しているか →備蓄の量が十分か →暑さや寒さ対策</p> <p>②発電機の稼働時間を把握しているか</p> <p>③長期避難になった場合、どこに連絡をし、避難を終えていくのか</p> <p>④地域が作成する避難計画との連携について</p> <p>⑤地域の防災イベントへの参加について</p> <p>今年度、泊を伴う長期避難も視野に入れ、取り組んできたが、被災地の状況は想定を超えており、被災地に学んだ防災計画を考える余地があると感じた。福祉や行政などと連携した防災計画の見直しや、地域の防災イベントへの参加など、児童生徒を取り巻く地域との連携の輪を広め、子どもたちを守る体制を整えていきたい。</p>	
		<p>活動計画</p> <p>①-1保護者や関係機関を含め、連携・相談し災害時や緊急時に速やかに対応できるよう、環境や避難グッズ、対応のあり方(マニュアル)を整える。</p> <p>①-2災害時や緊急時の対応について学部会を通して学部の教員で共通理解する。</p> <p>②学部で災害時や緊急時を想定したことで検討会や演習を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1災害時の長期避難に備え、徳島病院の医師の協力を得て児童の栄養確保として医療的ケアにない経鼻管栄養を実施するため、主治医及び保護者の協力を得て経管栄養グッズや指示書を整えた。</p> <p>①-2担任を中心に学級で対応を考え、学部の教員に知って欲しいこと協力して欲しいことを日常的に共通理解を図ることができた。</p> <p>②環境整備や避難訓練など学部で検討会や演習を行い、改善を図ることができた。回覧により意見の集約や周知を図った。</p>				
	<p><特別活動課></p> <p>・安全教育を通して、災害時や不審者侵入時における児童生徒の主体的な安全確保の能力向上を進めるとともに、教員の危機管理能力を高める。</p>	<p>評価指標</p> <p>①警察と連携し、緊急通報システムを活用しての不審者対応訓練を年間1回実施する。</p> <p>②年間3回の避難訓練の実施と年間2回の防災学習を実施する。</p>	<p>①警察と連携し、緊急通報システムを使用した不審者対応訓練を全職員で実施できた。</p> <p>②年間3回の避難訓練と年間2回の防災学習を実施した。児童生徒、教員ともに災害時の行動や安全確保等の能力を高めることができた。</p>	B	<p>(所見)</p> <p>避難訓練や防災学習を毎年行い繰り返し学習すること、時代や児童生徒の実態に合った内容を行うこと等の必要性を感じた。</p>		
		<p>活動計画</p> <p>①緊急通報システムを使用した不審者侵入時の対応訓練をする。</p> <p>②-1近隣病院と連携した避難訓練やその他の避難訓練等を年間3回行う。</p> <p>②-2災害時を想定し、発電機を使用して炊き出しをしたり、医療的ケアの機器やその他の機器類の動作確認をしたりする防災学習を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①警察と連携し、緊急通報システムを使用した不審者対応訓練を実施し、不審者が侵入した際の適切な対応方法を学ぶことができた。</p> <p>②-1徳島病院を避難場所とする地震避難訓練や担架等を使用した垂直避難訓練、火災避難訓練等を実施することができた。</p> <p>②-2発電機を使用して身近な電化製品や吸引器を 작동させたり、非常食を作って試食したりする防災学習を行うことができた。</p>				

重点課題	重点目標	自己評価			総合評価	B	学校関係者評価 今後の改善方策
		評価指標	評価指標による達成度	評価	(所見)		
◆研修の充実と教員の専門性の向上	<p><教務課></p> <p>・学校支援システムによる指導要録作成に係るマニュアルについて、入力した文字列の具体的な調整方法に関する内容を更新し、スムーズに指導要録の作成が行えるようにする。</p>	<p>評価指標</p> <p>①9月末を目途にマニュアルを更新して、10月の職員会議で周知することができる。</p>	<p>①学校支援システムによる指導要録作成に係るマニュアルを更新し、10月の職員会議は中止になったため、職員朝礼で周知をした。</p>	B	<p>(所見)</p> <p>マニュアルとして必要な内容については、おおよそカバーできたと考えている。ただ今後、新しい機能が追加された場合には、さらに更新が必要となる。</p>		
		<p>活動計画</p> <p>①1学期中にマニュアルの更新案を作成し、9月の課会で検討・最終調整をして完成させる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①予定どおりマニュアル(案)を作成し、教務課会、管理職回覧を経て完成した。</p>				
		<p>評価指標</p> <p>①外部講師を招聘して自立活動や教科学習等に必要の助言を受け、個別の指導計画に反映するため、研修会を年間5回程度実施する。</p> <p>②教職員全員が人権意識を高めることができるよう、長期休業中に人権教育に関する掲示等を行う。</p>	<p>①年間5回の研修会を実施し、個別の指導計画の自立活動や教科学習に反映することができた。</p> <p>②夏季休業中を挟む3か月間に個人人権課題の中から教職員が最も関心を持つ課題について掲示し、人権意識を高めることができた。</p>	B			<p>(所見)</p> <p>①外部講師を招聘しての研修会では、児童生徒に対する支援について再確認できたり、新たな知識技能として得ることができ、教員の専門性を高めることができた。</p> <p>②夏季休業中を利用し、全員で情報共有できるよう掲示を行うことで、全教職員が人権問題について考えるきっかけづくりができた。次年度も人権問題について考える機会を工夫し、設けていきたい。</p>
<p><研究課></p> <p>①外部講師からの指導助言を受ける機会を設けたり、校内での研修を充実することで自立活動や教科学習等の指導における知識技能の向上を図り、教員の専門性を高める。</p> <p>②身の回りにある様々な人権に関する問題について気づき、考え、教職員の人権意識を高める。</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1理学療法士や作業療法士、言語聴覚士等を招聘し、自立活動や各教科の指導、またICT機器による支援等に関する研修会を実施する。</p> <p>①-2オンラインでの校外研修会のうち、児童生徒の実態に応じた内容のものを取り上げ、ミニ研修会として実施する。</p> <p>②様々な人権問題に関する課題を取り上げた掲示を行い、教職員全員が自分の意見や考えを自由にメモに書き、貼付する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①-1理学療法士や作業療法士、言語聴覚士を招聘した研修会を3回、ICT機器による支援についての研修会を2回実施することができた。</p> <p>①-2全国病弱虚弱教育研究連盟研究大会の重症心身障がい児の支援についてのオンライン研修会を実施した。</p> <p>②人権問題についての掲示を行い、多くの教職員が自分の意見をメモに書き、貼付することができた。</p>		<p>(所見)</p> <p>①ICT機器や支援機器の導入に関しては、報道による情報から、新しいことが導入され教員が混乱していないのか、使い方の習得に労力がかかり、実際のところ働き方改革になっているのかという意見があった。本校では研修を機に教員のスキルアップを支援し、活用が軌道に乗り始めている。今後も、GIGAスクールサポーターを活用して、働き方改革の視点も含めながら教員のICT活用を支援していきたい。</p>	<p>ICT機器や支援機器の導入に関しては、報道による情報から、新しいことが導入され教員が混乱していないのか、使い方の習得に労力がかかり、実際のところ働き方改革になっているのかという意見があった。本校では研修を機に教員のスキルアップを支援し、活用が軌道に乗り始めている。今後も、GIGAスクールサポーターを活用して、働き方改革の視点も含めながら教員のICT活用を支援していきたい。</p>		
<p><情報視聴覚課></p> <p>①児童生徒のニーズに即したICT教材や支援機器を使用するために、教員のICT活用に関する指導力の向上を図る。</p> <p>②家庭・地域へと学校の活動を発信するために学校HPの更新頻度を高める。</p>	<p>評価指標</p> <p>①GIGAスクールサポーターを交え、ICT機器や支援機器等の活用に関する校内研修を年間10回以上実施する。</p> <p>②学校HPの更新を年間100回以上実施する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①GIGAスクールサポーターを交え、ICT機器や支援機器等の活用に関する校内研修を年間10回実施することができた。</p> <p>②学校HPの更新を令和6年1月31日で106回実施することができた。</p>	A	<p>(所見)</p> <p>①ニーズに関するアンケートを実施し、それに基づいた内容で研修を行ったことで、参加者が積極的に研修に取り組むことができた。GIGAスクールサポーターと一緒にメタモジの実践的な研修を行ったことで新しい知識を得ることができた。</p> <p>②教員全体でHPの更新に意識を高く取り組むことができた。</p>	<p>ホームページや広報などで十分な情報発信ができていますと評価をいただいた。今後も地域に積極的な情報発信をしていきたい。</p>		
	<p>活動計画</p> <p>①ICT機器や支援機器等の活用に関する内容についての校内研修を実施する。</p> <p>②多くの教員が学校ホームページの作成に関わることができるよう、学校ホームページの更新についての研修や紹介を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①職員の意見を汲み取り、ニーズの多かった支援機器やソフトウェアについての研修を行った。</p> <p>②学校ホームページについての研修や写真の活用方法についての紹介を行った。</p>					

重点課題	重点目標	自己評価			総合評価	B	学校関係者評価 今後の改善方策
		評価指標	評価指標による達成度	評価			
◆保護者・地域及び関係機関との連携や協働による持続可能な学校づくり	<全学部> ・地域の放置竹林について地域の人より学び、放置竹林再生の活動の一つとして竹水の有効活用に取り組む。	評価指標 ①放置竹林再生の活動をしている地域の人の支援を受けて、全校で竹水石けんの製作に取り組む、児童生徒のできることを生かしてオリジナルの竹水石けんを製作することができる。	評価指標による達成度 ①竹林再生会議の長池氏と加藤氏より、放置竹林再生の活動について学び、竹水を使った石けん作りに取り組んだ。児童生徒のできることを生かしてそれぞれがオリジナルの石けんを作ることができた。	B	(所見) 学校運営協議会での提案を取り入れた地域との協働の取組として実施した。地域より講師を招き、放置竹林の再生活動について学びを深め、そこで得られる竹水の有効活用として石けん作りを行うことができた。地域の講師による学びは新鮮で、子どもたちにとっても世界が広がるものであった。 今回は校内で石けんを作り、自分たちの生活に還元することにとどまったが、今後さらなる地域とのつながりに発展させられるような取組を開拓していきたい。	委員の方からの提案で始まった「竹水石けん作り」の活動が成果をあげたと評価していただいた。作った石けんについては、配布できないのが残念であったが、児童生徒は個々に合った方法で竹水石けんづくりを楽しむことができた。次年度は、委員の方からの提案をもとに、「公共施設をもっとバリアフリーに」という活動に取り組みたい。利用をすることでよりよい施設になる提案を発信して地域に還元していこうと考えている。 本校のセンター的機能には大きな期待が寄せられた。特に巡回相談への期待は大きく、困っている児童生徒への環境設定の助言や楽しく学校生活を送れるように支援して欲しいとのことだった。また、相談者と必要な専門機関をつなぎ、地域の特別支援教育のマネジメントをして欲しいと期待が寄せられた。本校に相談すれば必要な機関につながることを発信し、今後も地域のニーズに応じたセンター的機能の向上を図りたい。	
		活動計画 ①-1放置竹林の実態を知り、負の遺産となりつつある放置竹林で採れる竹水を有効な資源として石けん作りに活用し、再生活動に取り組む。 ①-2製作チームを発足し、児童生徒のできることを最大限に活かし、全校で工夫を凝らして竹水石けんの製作に取り組む。	活動計画の実施状況 ①-1放置竹林の再生活動や他校での取組などを学んだ。竹より採取できる竹水の有効性について学び、本校児童生徒が取り組みやすい竹水石けん作りを行った。 ①-2製作チームで試作をすることで児童生徒が取り組みやすい工夫や段取りを考えた。また、ドライフルーツの飾りやラッピングなど無機質な石けんを飾るオリジナルの工夫をした。				
	<特別支援教育課> ・特別支援教育巡回相談員活動等を通して、本校のセンター的機能を発揮する。	評価指標 ①地域の学校等の教職員を対象に、自立活動の授業づくりの参考となる講演会を年1回実施する。 ②特別支援教育に関する理解啓発として、学校ホームページ（地域支援）に「かも先生の特別支援教育だより」を前期後期1回ずつ掲載する。	評価指標による達成度 ①夏季休業中に、『特別支援教育で活用できるSST』と題した講演会を実施した。 ②「かも先生の特別支援教育だより」を前期後期1回ずつホームページに掲載し、情報を発信した。	B	(所見) 講演会後のアンケートには「SSTの具体的な実施の仕方が分かった」という意見以外に、「初めてSSTが解決志向ではなく希望志向型アプローチであることを知った」「子どもによいところをフィードバックする教師側の考え方や視点が大切と思った」等の記述が多くあった。教師が角度を変えて子どもを見る視点を持つことにより、視野の広いアセスメントにつながるとわかった。 今後も地域のニーズに応じた情報発信を意識し、センター的機能を発揮できるよう務める。		
		活動計画 ①昨年度のアンケートを基に講師先生に講演内容をお願いし、講演会後のアンケートで参考になったという意見を過半数以上得る。 ②「かも先生の特別支援教育だより」に、地域での相談によくあがる事例のQ&Aを掲載する。	活動計画の実施状況 ①地域から35名の参加があり、88%の方から「満足」とのアンケート結果を得た。 ②相談によくあがる事例をもとに、前期は園や学校で子どもたちが示す行動の捉え方、後期は適切な行動を促すための支援について掲載した。				